

令和 6 年 第 26 回

沼津市二十歳の議会会議録

令和 6 年 1 月 7 日 開会

令和 6 年 1 月 7 日 閉会

沼 津 市
沼津市教育委員会

令和6年(第26回) 沼津市二十歳の議会 議員名簿

番号	校区	氏名	ふりがな	質問内容
1	第一	服部 慶介	はっとり けいすけ	
2	第二	佐藤 紳乃介	さとう しんのすけ	
3	第三	奈良 優樹	なら ゆうき	
4	第四	久保田 優介	くぼた ゆうすけ	沼津市の結婚支援について
5	第五	久保 友梨	くぼ ゆうり	
6	門池	下山 いつき	しもやま いつき	
7	金岡	高橋 伽子	たかはし かこ	議長
8	大岡	川島 優輝	かわしま ゆうき	
9	愛鷹	大嶋 美梨	おおしま みり	
10	片浜	土屋 黎	つちや らい	
11	今沢	永田 泰寛	ながた たいかん	
12	大平	富田 零	とみた れい	
13	静浦	伊藤 侍玄	いとう じげん	
14	長井崎	湯川 慎之助	ゆかわ しんのすけ	沼津市の津波対策について
15	原	栗田 岳寛	くりた たけひろ	
16	浮島	植松 聡太	うえまつ そうた	
17	戸田	宮崎 富一	みやざき といち	教育現場におけるICTの活用方法について
18	市立	山本 花凜	やまもと かりん	
19	暁秀	秋山 弘毅	あきやま こうき	

二十歳の一言 テーマ：わたしにとっての沼津の宝

令和6年（第26回）沼津市二十歳の議会 議場出席者名簿

	職 名	氏 名
1	市 長	頼 重 秀 一
2	副市長	吉澤 勇一郎
3	副市長	塚本 秀綱
4	教育長	奥 村 篤
5	総務部長	杉 山 康
6	政策推進部長	山田 晃良
7	財務部長	岩瀬 宗一
8	市民福祉部長	久保田 弘行
9	産業振興部長	岡田 卓治
10	生活環境部長	加藤 忠彦
11	都市計画部長	土屋 剛彦
12	沼津駅周辺整備部長	橋本 大介
13	建設部長	杉山 泰彦
14	水道部長	秋山 幸宏
15	市立病院事務局長	後藤 鉄也
16	監査委員事務局長	原 恵子
17	教育次長	山本 貴史
18	危機管理監	真野 正実
19	福祉事務所長	土屋 仁志

令和6年（第26回）沼津市二十歳の議会 会期日程

日数	月 日	曜日	開議時刻	区 分	内 容
1	1月7日	日	14時	本会議	開会、会期の決定、一般質問 二十歳の一言、閉会

令和6年（第26回）二十歳の議会 議事日程（第1日）
令和6年1月7日（日曜日） 14時 開会

第1 会期の決定

第2 一般質問

第3 二十歳の一言

令和6年（第26回）二十歳の議会 質問通告一覧

令和6年1月7日

順番	氏名	標 題	答弁者
1	4番 くぼた ゆうすけ 久保田 優介	1 沼津市の結婚支援について	市長
2	17番 みやざき といち 宮崎 富一	1 教育現場における ICTの活用方法について	教育長
3	14番 ゆかわ しんのすけ 湯川 慎之助	1 沼津市の津波対策について	市長

令和6年（第26回）沼津市二十歳の議会会議録

令和6年1月7日（日曜日）午後2時 開会
於 議 場

○会議

○議長（高橋 伽子）

ただいまから、令和6年第26回沼津市二十歳の議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

この際、諸般の報告をいたします。

当局から、自己紹介を求められておりますので、二十歳の議会議員への自己紹介を許可いたします。

○当局

当局出席者が、各自、自己紹介

○議長（高橋 伽子）

以上で諸般の報告を終わります。

○議長（高橋 伽子）

本日の議事日程は、お手元に配付してございますので、ご了承願います。

○議長（高橋 伽子）

日程に入ります。

日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

本二十歳の議会の会期は、お手元に配付してございます日程表のとおり、本日1日限りといたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

ご異議なしと認めます。

よって、本二十歳の議会の会期は、本日1日限りと決定いたしました。

○議長（高橋 伽子）

次に、日程第2、一般質問を行います。発言の通告がありますので、順次発言を許します。

○議長（高橋 伽子）

4番 久保田 優介 議員。

○4番 久保田 優介 議員

沼津市の結婚支援について質問させていただきます。

近年、日本全体で問題になっている少子高齢化。沼津市もその問題に直面しています。

少子化の原因としては「夫婦の子供の数の低下」が重要視され、沼津市でも不妊治療に関する支援や子育てに関する支援が事業の一つの柱として行われています。

しかし、沼津市が令和3年3月に発表した『沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン』では、もう一つの原因として「未婚率・初婚年齢の上昇」が挙げられています。実際、沼津市内の25歳から39歳の男女の未婚率は年々増加し、平均初婚年齢も上昇しています。なお、沼津市としてはすでに「沼津の出会い応援課」というものがあることを伺いました。

現在は、結婚しなければならないという考えが改められつつあり、結婚するかしないかは個人の自由が尊重されるようになってきました。それでも、いい人がいれば結婚したいと思う人はいるはずです。以上のことから、私は沼津市の少子化対策のもう一つの視点として、若者が結婚をしようと思う環境のさらなる整備が挙げられると思います。

そこで質問いたします。

現在、沼津市で進められている結婚支援には、「沼津の出会い応援課」をはじめとしてどのようなものがあるのでしょうか。また、それらの進捗・今後の方針についてもお聞かせください。

○市長（頼重 秀一）

本市の結婚支援についてお答えします。

本市では、久保田議員からもご紹介いただきました婚活支援サイト「沼津の出会い応援課」による情報発信のほか、市主催のイベントやセミナーの開催、公認婚活サポーター「縁結び隊」の運営、静岡県及び県内35市町の協働による広域的な結婚支援、新婚夫婦に対する住居費の補助などを実施しております。

イベント及びセミナーの開催については、令和4年度は婚活イベントを2回、婚活セミナーを2回開催しており、コミュニケーションを取りながら進めていくボードゲームを活用したイベントのほか、ヘアアレンジ体験やコミュニケーションスキルアップセミナーを実施し、延べ53人が参加されました。

「縁結び隊」では、男女の出会いの相談などを行っており、令和4年度までに14組の入籍をお手伝いしました。また、市主催の婚活イベントに携わっていただくなど、結婚を希望する方のサポ

ートを行っております。

広域的な結婚支援については、静岡県及び県内 35 市町が、広域的な結婚支援を目的に設立した「ふじのくに結婚応援協議会」に参画しており、協議会が運営する「ふじのくに出会いサポートセンター」によるビッグデータを活用した結婚支援や広域的な情報発信に取り組んでおります。

新婚夫婦に対する住居費の補助については、結婚後の生活を支援することが結婚の後押しにつながることから、新たに家庭を築いた新婚夫婦に対し、新生活を開始する際の住宅の取得や賃貸、引越しに係る費用の補助を行っており、令和 4 年度は 25 組の夫婦に対して補助を行いました。

今後も、「縁結び隊」や民間団体との連携を強化し、誰もが参加しやすい魅力ある婚活イベントを定期的に開催するほか、静岡県や近隣市町と協力し、より多くの出会いの場や機会を提供するなど、出会いから結婚までをサポートすることで、結婚を望む方の希望がかなえられるよう支援してまいります。

○議長（高橋 伽子）

17 番 宮崎 富一 議員。

○17 番 宮崎 富一 議員

教育現場における ICT の活用方法について質問いたします。

沼津市教育基本構想「貴き志」において、ICT を活用することの教育的意義は、多様化する子供の力を最大限引き出し、学力の向上を図っていくこと、情報活用能力の向上にあるとされています。

現在の社会情勢を受けて、日本では、プログラミングや ICT に関する専門的な知識等を含めて、教育内容を検討する必要性が生じてきました。

これを鑑みると、ICT 活用の教育的意義は、子供の潜在的な能力の早期自覚や発見につなげ、誇り高い沼津を「創造できる」貴き志を持つ人を育てることであると考えられます。

この教育的意義に対して、実際の活用方法を沼津市立小中学校ポータルサイトにて確認したところ、ある小学校では、6 年生の理科の授業で、プログラミングを扱っていました。これは情報端末を配付する前には行うことのできなかつた領域の学習であり、小学生の新たな能力を見出すことにつながります。一方、ある中学校の 2 年生の美術の授業では、作品のアイデアをネットで検索していました。これは、実際の美術教育専門の場においても行われている手法ではありますが、小中学生の美術教育の本質は、授業で学んだ画法、作法の知識をもとにアイデアを練ることであり、情報端末を使用することが必ずしも美術及び ICT 双方の教育目標の達成につながるわけではないのではと考えます。

そこで質問いたします。

教育現場での ICT の活用方法について、現在、発信されている情報を拝見する限り、先に述べたような教育的意義との乖離があるのではないかと考えます。

これからの時代、ICT に関する新たな知識や技術を持った小中学生はますます増えていくことと

思われます。そのような子供たちの技術伸長を支援するような ICT の活用方法について、どのように検討されているのか、伺います。

また、教育現場における ICT 活用の具体案がありましたら、その教育的意義と目指す人物像についてもお聞かせください。

○教育長（奥村 篤）

小中学校の教育現場における ICT の活用方法についてお答えします。

本市では、沼津市教育基本構想において、「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」を教育目標に掲げ、その施策の方向性として人間力を磨く教育と地域総がかりで取り組む教育を2本の柱として進めております。

そのような中において、ICT を活用した教育は、児童生徒の力を最大限に引き出し、学力の向上を図るためのツールとして、重要な政策の一つであります。

AI やロボット等のデジタル技術が、あらゆる分野で重要性を増している Society5.0 の現代社会におきましては、基礎的読解力や数学的思考力などの基盤的な学力、飛躍的な知の発見や創造など、新たな社会を牽引する能力を身に付けることが求められております。

こうした社会に対応するため、本市は、国の GIGA スクール構想に基づき、児童生徒に1人1台端末を導入したことに合わせ、教育委員会内に情報教育を専門とする「情報教育推進室」を設置いたしました。そこでは情報活用能力とともに問題を発見し、解決する能力等の育成を目指し、「沼津市学校教育における ICT 活用方針」を定めております。

この活用方針では、すべての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学び、協働的な学び及び学びの継続を実現して、様々な課題に柔軟に対応できる人づくりを目指しております。

各小中学校における ICT を活用した授業では、基本的には子供たちが自らの力で試行錯誤しながら考え出したアイデアを大切にして授業を進めています。その授業成果につきましては、教員同士で話し合い、時には情報教育推進室のアドバイザー職員などの意見も取り入れながら、適切な学びの授業を組み立てております。

一方で、宮崎議員ご指摘のとおり、すべての学習において ICT を活用することが、必ずしも有効であるとは限らず、子供たちにとって、直接、物を見る、においを感じる、触れてみる等の感性の育成も大変重要であると考えております。

そのようなことから、デジタルとリアルを融合しながら、子供たちにとっての最適な学びの機会を創造していきたいと考えております。

次に ICT を活用した一例を紹介します。第四小学校では、地元企業に協力を仰ぎながらドローンを使ったプログラミング教室を開催しました。児童はチームに分かれてアイデアを出し合い、ドローンが自分たちのプログラムどおりスタートからゴールまでたどり着くよう、楽しみながら学ぶ授業を行いました。

また、宮崎議員の母校である、現在の戸田小中一貫学校では、児童生徒全員でマッスルトレーニ

ングという体操に取り組んでおります。生徒が自ら企画・撮影・編集した動画を作成し、下級生にも配信するなど、学校全体が一つとなり、毎朝楽しくトレーニングを行う時間を作りました。

さらに、大平中学校では、自分たちが暮らす地域のよさを社会に発信したい思いから、ウェブサイトを立てました。画面に向かってウェブサイトを作るだけでなく、Chromebook を抱えて地域に飛び出し、撮影や取材も精力的に取り組むなど、生徒自らが運営し、世界に向けて情報を発信しております。

こうした取組を積み重ねながら、今後も変化し続ける社会や先行き不透明な時代の中で生じる様々な課題に対し、自ら判断し仲間と協働して、主体的に行動できる人づくりに努めてまいります。

宮崎議員は、現在、学校で化学やデジタル技術など、専門分野を学んでいるものと推察しますが、今後ともその知識・見聞を広げ、世界に羽ばたくような活躍を大いに期待しております。

○議長（高橋 伽子）

14 番 湯川 慎之助 議員

○14 番 湯川 慎之助 議員

沼津市の津波への対策について質問させていただきます。

私の暮らす内浦は海に面しており、水産業の面において恩恵を受ける一方で、常に津波に対する脅威を感じながら暮らしています。

現在、内浦重須地区では高台への集団移転が進められたり、私たちの地域の津波避難所への案内看板が新しくなったり、津波に対する対策がおこなわれていることを強く感じます。

しかし、戸田地区では津波の到達時間が速く、近くに高い建物がいないため、避難困難な地区があるとテレビでやっていました。

また、自分たち地域は若者の数が少なく、高齢者が多くなっています。避難の際に高齢者を助ける若者もいないため、そのような地域の人たちの避難は困難です。

そこで質問いたします。

沼津市はそのような地域に対して、災害時どのような対応を考えていますか。

また、災害が起こる前にはどのようなことができると考えていますか。

○市長（頼重 秀一）

沼津市の津波対策についてお答えいたします。

本市は伊豆半島の付け根に位置し、北は富士山を仰ぐ愛鷹山麓が広がり、南は達磨山を最高峰に急傾斜面の山々が連なり、本市中心部を流れる狩野川や、変化に富んだ約 63 kmに及ぶ海岸線を有しております。

こうした地理的条件から、湯川議員ご指摘のとおり、風光明媚で美しい自然環境を有する一方で、自然災害の発生リスクが高い地域でもあります。

元旦には石川県の能登半島において、大規模な災害が発災しました。マグニチュード 7.6、最大震度 7。石川県では多くの尊い命が犠牲になるなど、痛ましい報道がなされています。日を追うごとに被害の状況が拡大する中、全国各地から支援部隊等が到着し、被災者の方々の救助と、ライフラインの復旧、地域の復興が進められているというような状況です。本市におきましても職員を派遣し、駿東伊豆消防本部の職員も、本日、第 3 次派遣隊として出動いたしました。

南海トラフ巨大地震につきましては、その発生の切迫性が危惧され、今後 30 年以内に発生する確率は 70%から 80%とも言われております。

平成 25 年に公表された静岡県の「第 4 次地震被害想定」では、「発生頻度が比較的高く、大きな被害をもたらす地震・津波」を「レベル 1」とし、「発生頻度は極めて低いが大規模な被害をもたらす地震・津波」を「レベル 2」として、震度や津波高、浸水域と人的・物的被害の想定がなされております。

本市においてレベル 2 の津波は最大で約 10 メートルとなり、到達時間は戸田地区で最も短く 4 分程度であり、市内において想定される死者数は最大で 1 万人を超えるとされ、その大部分は地震そのものより、津波被害によるものとされております。

このため、本市では、市民の命を第一に考え、「人的被害の最小化」を目標に、平成 26 年に計画期間を 10 年とする「沼津市地震・津波対策アクションプラン」を策定し、ハード・ソフトの両面において、100 からなる取組を迅速かつ着実に推進してまいりました。

発災に備えた事前の対策が極めて重要であることから、ハード面においては、沿岸部に津波避難タワーを 3 基設置したほか、民間のビルオーナーに協力いただき 226 棟の津波避難ビルの指定と併せ、津波避難路に手摺りや照明灯を設けるなど 193 か所の整備が既に完了しております。

また、ご指摘のありました高台移転につきましては、内浦重須地区において、平成 23 年の東日本大震災を契機に、津波被害を未然に防ぐため、県、市、有識者を含めた勉強会を実施し、高台への集団移転について検討を行ってきました。個々の事情により、地区全体での集団移転の実現には至らなかったものの、7 世帯の住宅が令和 6 年度末までに移転完了する見込みとなっております。

一方、ソフト面においては、静岡県第 4 次地震被害想定をもとに、「沼津市地震・津波ハザードマップ」を作成し、市内全戸に配布しております。

このマップは全市版と地区版があり、全市版には津波浸水区域のほか震度分布及び液状化の危険度を示し、各地域の避難地等を掲載しております。

また、地区版には津波浸水深、津波到達時間を示すとともに、津波避難ビルの表示や受け入れ可能人数など、災害時に役立てられる情報を分かりやすく記載しております。

このほか、津波浸水想定区域においては、いかに早く、いかに高く避難するかが重要であるため、地域の地理的・地形的な要件を踏まえ、本市が推奨する「逃げ地図」を作成し、その周知にも取り組んでおります。

特に、発災時には、市民にいち早く情報を届けることが最も重要であることから、市内各所に設置しております屋外同報無線による一斉自動放送や、登録制メールの自動配信などを通じ、津波の

発生に伴い必要となる情報の配信体制の整備に努めております。

なお、今後につきましては、避難行動に支援が必要となる方々を対象とした「個別避難計画」の作成のほか、避難困難地区における避難先の確保など、課題解決に向け引き続き取り組んでまいります。

南海トラフ巨大地震のような広域的な大規模災害においては、平成 23 年の東日本大震災の事例にもあるとおり、発災直後の行政対応には、限界があるものと認識しております。

このため、各地域で実施されている避難訓練等を通じ、避難経路の確認や避難路上の危険要因などの把握を行うなど、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」の啓発により、さらなる市民の防災意識の向上にも取り組んでおります。

こうした防災・減災対策を、国や県等の関係機関と連携を図りつつ着実に実施していく中で、激甚化する様々な災害に備え、誰もが安全・安心を実感して暮らすことができる、災害にも強いまちづくりを推進してまいります。

○議長（高橋 伽子）

以上で一般質問は終了いたしました。

○議長（高橋 伽子）

次に、日程第 3、二十歳の一言を行います。

二十歳の一言、「わたしにとっての沼津の宝」について、質問者以外の議員から、発言願います。昨年 7 月に沼津市は市制 100 周年を迎えました。これからの 100 年につなぎ、伝えていきたい沼津の宝について、質問者以外の議員から発言願います。

では、1 番議員から順番に発言願います。

○1 番 服部 慶介 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、沼津を愛する人々です。

近年では「沼津市リノベーションまちづくり」という取組があり、沼津をよくするための案を出し合うプレゼンコンテストが行われていたり、アーケードのリノベーションが行われていたり、沼津を愛し、沼津をよくしたいと思う人たちが集まり、実際に動き出しています。

高校卒業まで沼津で過ごす中で、人口減少、シャッター街の問題などを抱える現状を見ていて、沼津の将来に不安を感じていました。しかし、沼津のために頑張っている方々の存在を知り、沼津のこれからの対する印象が明るくなりました。このように、沼津を愛する人々が私が考える沼津の宝です。

自分もただ傍観しているだけではなく、沼津のことを知り、これからの沼津をよくするために、力になれることを探していきたいと思えます。

○2番 佐藤 紳乃介 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、千本浜です。

私は、幼い頃から千本浜から見える美しい富士山を眺めて育ちました。その絶景は沼津に住む人のみならず、世界中の人をも感動させるグローバルな魅力があると感じています。堤防の上を散歩していると打ち寄せる波音が心地よく、心が安らぎます。ジョギングにも最適で、私自身も学校の体育の授業で堤防の上を走っていたため、思い出深い地でもあります。

そんな千本浜を美しく保つため、地域単位での環境美化活動や、災害時の避難場所の明示をはじめとした自然災害対策が行われています。

私は、実際に来ていただいた方に満足していただくためにも、東海道随一の景勝地である千本浜をこれからも守っていきたいと考えています。

○6番 下山 いつき 議員

大変悩みましたが、私の中で一番輝いている宝についてお話ししたいと思います。

「わたしにとっての沼津の宝」は、学校の先生です。

小学校の時から今に至るまで、私の中でずっと輝き続けている存在だからです。先生の存在は皆さんの中でも大きいのではないのでしょうか。沼津の未来を担う子供たちを育てる、学校の先生をこれからも大切にしていってほしいと思います。そして私は今、学校の先生になるために頑張っているところです。私もキラキラと輝く先生になるために磨きをかけていくつもりです。

○5番 久保 友梨 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、豊かな自然を望めるところです。

春は門池公園や愛鷹公園の桜並木、夏は千本浜、秋は沼津アルプスの紅葉、冬は沼津からの雪化粧をした富士山など、四季を感じることができると思います。私は現在、沼津にある実家から自転車を使い、沼津市内の専門学校へと通学しておりますが、日々変化していく豊かな自然を五感で感じながら過ごしています。もし、この先沼津を離れることがあれば、沼津の比較的温暖で過ごしやすく、豊かな自然に囲まれた環境が恋しくなるのではないかと思います。昨年市制100周年を迎えましたが、この先何年もずっと豊かな自然が守られることを願うとともに、沼津で育ち、沼津で生活する沼津市民の一人として、これからも沼津の自然を大切に、愛していきたいと思っています。

○12番 富田 零 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、年齢や国籍を問わず楽しめるまちの魅力です。

私は高校を卒業後に就職し、大平から通勤しています。職場では様々な場所から来ている方から、沼津のよいところ、美味しいものを聞かれることがあり、そのたびにいろいろなところを紹介しますが、「沼津っていいね!」と言われることもあり、沼津のよさを再発見しています。

まちには、台風で冠水するところがあったり、商店街にシャッターが下りているところが多かつ

たりと、課題もあると思います。しかし、水がきれいな狩野川、シーラカンスミュージアムにびゅうお、沼津の海の幸が食べられる沼津港などがあり、さらに『ラブライブ!サンシャイン!!』でも有名になりました。このように、どんな年齢でも、どんな性別でも、どんな国籍でも、幅広い方々に楽しんでいただける魅力が、私の思う沼津の宝です。

○13番 伊藤 侍玄 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、地域性です。

理由は二つあります。一つに、私は三島南高校在学中に、春の選抜高校野球大会に21世紀枠で出場しました。三島市の高校であるにもかかわらず、地元の方からたくさんの応援をいただきました。

二つに、私は将来のために、地元の消防団に入団しています。消防団の方たちとは親子ほど年が離れていますが、全員があたたかく迎え入れてくださり、今も優しく指導していただいております。私はこのような理由から、沼津の宝は地域性であると考えます。

○8番 川島 優輝 議員

先ほど二十歳の集いを終え、友人と久しぶりに会話をし、気がついたことがあります。私はここ沼津で、輝きにあふれた20年間を過ごしてきたということです。スポーツや学校教育を通じて出会った師や仲間たち、富士山や駿河湾などの豊かな自然、これらに囲まれた20年間は、きっと私の人生にとってかけがえのないものになるでしょう。

沼津の宝は子供たちです。宝である子供たちの目がキラキラ輝くような沼津を、そして20年後にこの場で、沼津で過ごした20年間はかけがえのないものであったと振り返ることのできるような沼津をつくり、支えていかなければならないと、二十歳として感じました。

○9番 大嶋 美梨 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、豊かな自然や資源、人に恵まれた環境があることです。

沼津市は駿河湾に面していながらも、愛鷹山などの山もあり、非常に自然環境に恵まれていると思います。それだけではなく、市制100周年を迎えた歴史あるまちでもあります。

また、このような議会に携わる機会を設けてくださること、文化や歴史を大切にしながらも、沼津の発展に向けた開発を進めていることなどから、人づくり、まちづくりに熱心なまちでもあると思っています。

私はこのような、様々な環境に恵まれた沼津という地で生まれ育つことができたことを誇らしく思うとともに、これらの環境があることが沼津の宝だと思っています。これからも、沼津の発展を願うとともに、私自身もその発展に貢献していけるよう、努力していきたいと思っています。

○16番 植松 聡太 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は原・浮島地区にある「浮島ひまわりらんど・なのはならんど」です。

夏になると、沼津市内の方だけでなく市外や県外からも多くの観光客が訪れ、テレビの取材が入ることもあります。私はこの場所が今のように有名になる前から、プロジェクトに携わってきました。活動は次世代へと受け継がれていき、現在につながっています。

この場所をさらに発展させるためには、積極的なイベントの開催やインフラの整備が必要です。浮島地区には駿河湾沼津サービスエリアがあり、沼津の玄関口となっています。交通の便のよさや美しい景観を維持していくことが、宝を守り、今後のさらなる沼津の発展に必要なようになってくると思います。浮島地区は、昨年と3年前の大雨で甚大な被害を受けました。浮島地区に住む人の暮らしを守るということに加え、観光客が安心して来れるようなインフラの整備が大切だと考えます。

私自身も沼津に在住し、都内の大学に通っていますが、沼津のほうが自然豊かで住みやすいところだと感じています。私も「浮島ひまわりらんど」を含めた沼津の自然を大切にしていけるような行動をしていきたいと思っています。

○15番 栗田 岳寛 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、沼津のお茶です。

沼津市は伝統的なお茶の産地です。茶畑が広がり、質の高い茶葉が栽培されています。地元の農家が手がけるお茶は、深い香りと味わいが特徴で、お茶愛好家にとっても貴重な存在となっています。また、お茶摘み体験やお茶の試飲等、お茶文化を楽しむこともできます。給食に出た思い出の「お茶ご飯」をはじめ、お茶文化はとてもユニークです。

私は小さい頃から沼津のお茶を飲んでおり、今でもお茶が大好きです。今後も地元では沼津のお茶が愛され続けていくと思いますが、その魅力は市外にも広がりを見せていくと感じています。

○3番 奈良 優樹 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、豊かな自然です。

空を上げば美しい富士山が、周りを見渡せば、日本一の深海・駿河湾と、緑の山々が広がっています。

移りゆく季節の中で、日々違った景色・表情を見せてくれる沼津の風景は、私たちのふるさととして、いつまでも心の中に残り続けます。

美しい沼津の自然を私たちの誇りとして未来の世代へとつないでいきたいと思っています。

○10番 土屋 黎 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、千本松原です。

近くには壮大な駿河湾と、千本公園等もあります。

私が千本松原を沼津の宝に選定したのは、家の近くにあり、小さい頃から慣れ親しんだ自然豊かな場所だからです。悩みがあるときは、心を落ち着かせるためにも、よく行きました。

今、東京で生活している自分にとってはこのような自然には触れられず、沼津ならではの魅力ではないかと感じています。

○11 番 永田 泰寛 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、原にある松蔭寺です。

私は明庵栄西禅師が宗祖である臨済宗のお寺に生まれ、将来僧侶になるために、京都で日々修行をしております。

この松蔭寺も同じく臨済宗のお寺で、700年の歴史があり、江戸時代に臨済宗中興の祖である白隠慧鶴禅師が住職を務められた寺として知られています。白隠禅師は沼津の原にお生まれになり、松蔭寺で出家され、全国を行脚し、説法するとともに、多数の唱和を残し、江戸時代に低迷した臨済禅を蘇らせた名僧です。そして、人生の最後も松蔭寺で過ごされました。そんな有名な方のお墓がここ松蔭寺にはあります。

今日、世界にも禅が広がっています。禅の一部ではありますが、松蔭寺でしか感じられない禅の歴史が私にとっての沼津の宝です。

○18 番 山本 花凜 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、自然です。

温暖な気候に恵まれた沼津市は、富士山や駿河湾などの自然に囲まれている風光明媚なまちです。沼津市歌でも歌われている千本浜、その自然豊かな場所から見る富士山の景色はとても美しく、多くの人に愛されています。

高校3年生までは、自然は私にとって当たり前のものでした。しかし、大学生になり、地元を離れた今、沼津の自然は本当に美しく、そして世界に誇れるものだと改めて実感しました。

この自然を、これからも沼津の宝として大切にしていきたいです。

○19 番 秋山 弘毅 議員

「わたしにとっての沼津の宝」は、人です。

東京で学生生活を送る中で、沼津に住んでいた時には感じなかった、悩みや不安を感じるようになりました。二十歳を迎え、人生は選択の連続であることを実感しています。

大事な選択を迫られ、悩むたびに、私は沼津で出会った友人や先生、家族の言葉を思い出します。戦争や災害など、先行きの見えない不安な社会の中で、未来に進む指針となる自分らしさを与えてくれた沼津における様々な人たちとの交流、これが私にとっての沼津の宝です。

○議長（高橋 伽子）

最後に、議長の私、高橋 伽子から一言発言します。

今、こうして皆さんが真剣に沼津と向き合っているということ、とても嬉しく思います。二十歳という節目の年を迎えた私たちにとって、これから、故郷である沼津市とどう関わっていくのかということは、非常に重要なことだと思います。今日この場限りで、沼津に対して試行錯誤することを止めず、今後私たちの大切な沼津をよりよくしていくために、それぞれが自分らしく努力を続けていきたいと思います。一人でも多くの人間が沼津に思いを巡らせること。これが私にとって、守っていくべき沼津の宝です。

そのためには、沼津のよいところ、受け継がれてきたものを、守り続け、後世に伝えていく必要があります。また、さらなる沼津の発展のために前進していかなければなりません。そのためには、一人でも多くの方が、沼津市を思うことが大切です。私たちのかけがえのない故郷である沼津を守るため、発展させるため、より多くの方が愛してくれるようなまちにするため、これからも沼津と向き合い続けていきたいです。

○議長（高橋 伽子）

以上で、二十歳の一言は終了いたしました。

○議長（高橋 伽子）

以上で、本二十歳の議会の日程は終了いたしました。

○議長（高橋 伽子）

ここで市長から発言を求められておりますので、許可いたします。

○市長

二十歳の議会に参加された議員の皆様方、大変お疲れ様でした。

1月4日には戸田校区で、本日は市内16校区で「二十歳の集い」が開催されました。久しぶりに同級生の皆様方、地域の皆様方、お世話になった恩師の先生方と親しく交流され、あわせて後方の席に控えていらっしゃるご家族の方々に、二十歳の晴れ姿をご披露され、素晴らしい時を過ごされたことと思います。そのような貴重な時間を割き、本議会にご出席いただいたことに対し、改めて、市長として心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

1月1日に、石川県の能登半島において大規模な災害が発生しました。本来ならば、皆様方と同じような立場で「二十歳の集い」等に参加する方々が被災地にもいらっしゃることを考えますと、

このように無事に「二十歳の集い」及び「二十歳の議会」を開催することができたことは、感謝以外のなにものでもないと考えております。

どうか、皆様方もこのことを念頭に置いていただきたいと思います。

先ほど、3人の議員の方から質問を頂きました。

1問目は「沼津市における結婚支援について」、2問目は「教育現場における ICT の活用方法について」、3問目は「沼津市における津波対策について」ということでしたが、いずれの内容も極めて優れたものであり、本当に素晴らしいと感心いたしました。質問された皆様は、勉学の間や、社会人として生活する中において、様々なことを学ばれてきたと思います。その成果と、柔軟な発想を持って、地域における課題の解決に取り組もうという姿勢に深く感銘を受けました。

これから皆様も結婚を考える機会もあるかと思いますが、結婚支援に関して、地域を支える若い世代の方々の存在は、持続可能なまちづくりにおいて極めて重要です。

ご指摘いただきました内容は、非常に参考になることも多くございましたので、本市における今後の結婚支援等にしっかりと活用させていただきたいと思っております。

また、学校教育における ICT 等の活用に関しては、先ほど教育長の答弁にありましたとおり、GIGA スクール構想により、本市においても、児童生徒1人1台端末の取組を進めてまいりました。

ICT が加速度的に進歩している時代において、ICT の活用は未来を担う子供たちにとっての必修課題であると捉え、今後も教育委員会と連携して、教育環境の整備を進めてまいります。また、ICT のみならず、人として生きることの大切さを伝える教育にもしっかりと取り組んでまいります。

さらに、地震・津波のことにに関して、身につまされるような災害が1月1日に発生しました。南海トラフ巨大地震は避けては通れないと、先ほどもご答弁を申し上げたところですが、特に本市の場合は、これまでも地震に対する対応・対策等を練り、耐震化も進めてまいりました。津波対策をいかに進めることができるかが、安全・安心なまちづくりと、一人でも多くの方の命をお救いすることにつながると考えております。さらなる災害に強いまちづくりに努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

また、残りの16名の議員の皆様方から、お一人ずつ、「わたしにとっての沼津の宝」についてご披露いただきました。そのテーマは人であったり、優れた自然環境であったり、歴史であったり、様々でありましたが、そうした環境・地域の中で、皆様方が20年間を過ごされ、自分を構成する様々なものが育て上げられたということに対する感謝の思いを深く感じました。

私にも大学生の娘がおりますので、皆様の親御さんのような立場ですが、本当に素晴らしい方々が、本市において育ったのだなと感無量の思いです。どうか、それぞれの沼津の宝に対する思いを

しっかりと持ち続け、本市の発展のため、そして国のため、世界のために活躍していただきたいと思います。

本市は市制施行 100 周年を迎え、市制施行記念日である 7 月 1 日に記念式典を開催いたしました。全国で 89 番目、県内においては静岡、浜松に続いて 3 番目に市として誕生いたしました。この素晴らしいお祝いの年に、官民挙げて 36 の事業と市民の皆様からご提案いただいた 22 の事業を行ってまいりました。これらを通じて、多くの市民の皆様が本市に対する「誇りと愛着」を感じていただけたら、さらには市民以外の皆様方も、本市の魅力を感じていただけたら、本当にありがたいと考えております。

100 周年を記念した取組の一つとして、「ぬまづの宝 100 選」の改選を行いました。「ぬまづの宝 100 選」は沼津の優れた自然環境、歴史、産業、伝統、文化などを、市民の方から公募により選んでいただいたものです。沼津には過去 100 年間だけではなく、深い歴史の中において培われた様々なものがありますので、この機会に、「ぬまづの宝」をもう一度見つめ直し、大切にしていけることができると考えております。

また、まちづくりもいよいよ「動き出す 創り出す」という段階になってまいりました。

鉄道高架事業をはじめとした沼津駅周辺総合整備事業は、昭和 63 年 3 月にまさにこの場で、当時の渡辺朗市長が、鉄道高架事業の推進を表明して以来、30 年以上の長きに渡って取り組んでいる事業です。私で 6 代目の市長となりますが、昨年 3 月 30 日に JR 東海と JR 貨物、静岡県の 3 者により調印が結ばれ、いよいよ実現の方向になりました。今後はこれまでの車中心のまちづくりから、人を中心としたまちづくりに切り替え、様々な事業を展開いたします。

また、昨年 3 月 1 日には、新総合体育館もオープンし、バレーボール、バスケットボール、フェンシングなど、プロチームのホームゲームなども開催できるようになりました。スポーツを活用したまちづくりを積極的に進めてまいりたいと考えております。

また、昨年 10 月には沼津港で Sea 級グルメ全国大会 in 沼津が開催され、12 万 5 千人の方にお越しいただきました。沼津港は観光の拠点、沼津駅周辺は交通の結節点、そして沼津市総合体育館と沼津市民文化センターはスポーツ、文化芸術の殿堂です。この 3 か所をしっかりと連携させ、あわせて他の地域のコンテンツをさらに活用しながら、本市をいっそう盛り上げていく取組を積極的に行ってまいりたいと考えておりますので、ご期待いただきたいと思っております。

昨今、価値観というものが劇的に変化しています。まさに激動の時と言っても過言ではありません。そのような中において、皆様それぞれの価値観、そして社会における価値観を考えていただくことが大変重要であり、その先に、素晴らしいものを生み出していただき、見出していただき、そして育てていただきたいと思っております。そのような皆様方の行動は、次の 100 年へ向けて動き出し

た本市の基礎となるものです。

どうか、皆様方の若いエネルギーなパワーを本市に傾注していただければと思います。是非ともよろしく願い申し上げます。

結びにあたりまして、本日、議員としてご登壇いただきました皆様方に改めて感謝申し上げます。特に議長。私も 48 歳くらいの時に議長を経験させていただきましたが、議長席に座ったときには緊張する場面がたくさんありました。本当に初めて議長を経験されたのかと信じられないくらい、立派に務められたことに心から敬意を表します。

皆様のおかげで、本当に素晴らしい「二十歳の議会」を開催することができました。皆様方が誇りと自信をもって、今後ますます羽ばたいていただくことを心からご祈念申し上げ、市長としての挨拶に代えさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。



←当日の様子はこちらから
(市公式 YouTube 二十歳の議会)

令和6年第26回

沼津市二十歳の議会会議録

令和6年2月発行

編集・発行 沼 津 市
沼津市教育委員会